

# 赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311  
一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

# 3

 Mar 2011

Vol.850 <http://www.jrc.or.jp>



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society



噴煙をあげる新燃岳(写真:高原町役場提供)

## 岳火 新燃 降り注ぐ火山灰

### 宮崎県支部が災害対策本部設置

#### 避難住民に救援物資の配布と炊き出しを実施

1月中旬から噴火を続ける霧島連山の新燃岳。断続的な噴火は2月中旬以降も続いています。火山活動の長期化が

予想される中、降り注ぐ火山灰による住民生活への影響は甚大で火砕流の危険やわずかな降雨での土石流発生も予見

されています。日本赤十字社宮崎県支部では1月27日に災害警戒本部(28日から災害対策本部へ移行)を設置し、災害

救助活動を展開しています。1月29日から30日にかけては、火口に近い高原町内の避難所へ避難された住民の健康

相談のため看護師らを派遣しました。また、毛布やブルーシートなどの救援物資配付に災害時救援赤十字奉仕団、アマチュア無線赤十字奉仕団が協力したほか、2月12日には延岡工業高等学校の青少年赤十字メンバーと指導者の約2

00人が都城市内4カ所で降灰除去のボランティア活動を行いました。

高原町赤十字奉仕団による炊き出しは1月31日から2月11日まで連日実施。同奉仕団の黒木副委員長は「避難されている方においしくて温かいものを届けることで少しでも元気になるしてほしい」と話しています。

①隣県からも救援物資が届けられた②配った非常食は2800食分にも③火山灰をかぶったほうれん草畑(写真:高原町役場提供)



#### ハイチのコレラ対策

### 日赤医療チーム 第三班が帰国

また感染が拡大する可能性も...

昨年11月15日からコレラの対応で順次ハイチ入りした日赤の医療チームは4班(計22人)。日赤が中心となったコレラ治療ユニット(CITU)や、カナダ赤十字と共同運営したコレラ治療センター(CTC)などの医療施設で治療にあたったほか、手洗いの必要性や方法など正しい衛生知識の普及、現地医療スタッフへの指導を行ってきました。

今回帰国した村松幹司医師(名古屋第二赤十字病院・写真右)は「南東ポルタビマンに開設したCITUは首都から車で7時間近くかかり、医療物資を確保するのも困難でした」と報告。加えて、デモによる道路封鎖や相次ぐ発砲なども医療活動の妨げになったといっています。

こうした困難な状況の中で昨年11月末から約3カ月で690人以上の入院患者を受け入れました。コレラの流行は終息に向かっていると推測されますが、村松医師は「コレラ菌が広まった原因はハリケーンによる

大地震で大きな被害が出たハイチ共和国で、爆発的に感染が拡大したコレラに対応するために、日本赤十字社が派遣していた医療チーム第3班が2月14日、帰国しました。感染者は今年初め時点で約18万人、死者3700人以上とされ、国連は40万人以上が感染する可能性がある」と発表していました。



下痢による脱水症状を止める

水害。雨季に入るこれから、また感染が拡大する可能性がある」と危機感を表しました。日赤では、引き続き治療施設への支援と現地医療機関への研修に取り組んでいます。

# 地域のどこでも、誰でも受けられる講習を!

## 平成22年度健康生活支援講習・幼児安全法合同講師研修会

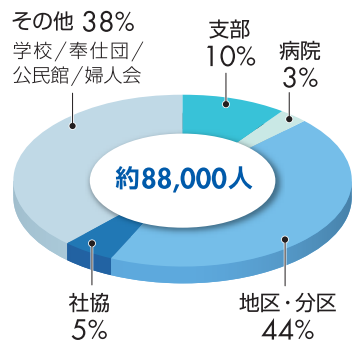
日本赤十字社が行う健康生活支援講習と幼児安全法の合同講師研修会が2月27～4日の3日間、本社で開催されました。

全国の日赤の支部・施設から90人が参加し、実技講習を交えながら知識や技術の向上を図るとともに、社会福祉協議会との連携や献血ルームでの宣伝・啓発など各地での普及事例を共有しました。

平成22年7月に行った調査の結果、地区区分で開催したい講習テーマとして「認知症について」の希望が最も多かったことから、研修会最終日

には認知症医療界の第一人者である認知症介護研究・研修東京センター名誉センター長の長谷川和夫さん(聖マリアンナ医科大学名誉教授)が、認知症療育の視点に立ったケアをテーマに講演しました。

◆主催者別にみた健康生活支援講習(H21年度)受講者数の割合



知症です。高齢化率はますます高くなります。今後、認知症の方も増え続けます。でも、全員がすぐに施設に入所できるわけではありませんが、ヘルパーさんだつて24時間生活を見るわけにはいけません。地域全体で認知症の方を支える町づくりが求められています。

例えば、炊事や掃除、買い物、投薬など4～5人のボランティアが分担して認知症の方を見守っていく。いずれはみんな高齢者になります。地域の中で支え合いの仕組みがあれば安心です。そんな社会ならば若い人だって長生きしたいと頑張れるはずですよ。

活にもつながっていきます。

### 人間の尊厳を守るケアを

種です。実はこのBPPSDも不安や孤独感を抱える認知症の方が「なんとかしなくては」と、もがき、あせる結果の行動なのです。介護に携わる人はそんな不安に寄り添い「大丈夫だよ」と安心感を与えてあげてほしい。そうすることで不安が軽減できれば、症状も軽くなっていく。介護の負担が減るだけでなく、本人の穏やかな生活

デイサービスで同じ施設に何度も通っている認知症の方があります。その方にとっては、毎日が新しい施設ですから、不安や緊張をいつも抱えています。そんなとき、ケアする方が笑顔で「今日も元気そうですね」と迎えてあげれば、その

時に安心感が生まれます。それが大切なことです。記憶に障害を抱えていても、感情の動きはあります。心は生きています。ところがケアする人は「認知症だから何も分からないし、できない」と判断して本人抜きに物事を進めてしまいがちです。効果的かもしれないが、人を大切にすることが、人への視点に欠けています。認知症の方の人間としての尊厳を守るには、その人の視点にたったケアこそが大切です。

理の際のじゃがいもの皮むきを手伝ってもらおう。評価してあげれば、嬉しいという感情が生まれる。記憶は残りますが、心を豊かにすることはできるのです。

### 地域で支え合う仕組みを

85歳以上の4人に1人が認知

### 赤十字社連盟創設署名文書を発見

### 国際赤十字の歴史探る弾みに

1919年に創設された赤十字社連盟(後に国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)に改称)。そのイニシアチフを取った日本、アメリカ、イギリス、フランス、イタリアの5カ国赤十字社の代表が連盟創設にあたり署名した「赤十字社連盟規約」の原文が、このほど発見され話題になっています。

インタビュー

### 笑顔でつながりたい

## 認知症患者さんとの心の絆



認知症介護研究・研修東京センター 名誉センター長 長谷川 和夫さん

認知症何れもかもできない状態ではありませんが、やれることはたくさんある。そこに目を向けてください。例えば、施設などでも料

1919年5月5日。パリで5カ国による赤十字会議が開催され、連盟が創設された日です。5カ国代表の署名がありますが、日赤代表として署名したのは、外事顧問であった滝川新博士。

署名された同規約は5通作成され、各赤十字社で保管していましたが、長い時間の中で各国とも行方不明に。署名を探し出した日本赤十字看護

### 平成22年度赤十字防災ボランティア・リーダー養成研修会

#### よりスムーズな被災者支援をめざして

災害時のボランティア活動の効果的、かつ円滑に推進するコーディネーター役の人材を育てようと、2月11～13日の3日間、日本赤十字社本社で「平成22年度赤十字防災ボランティア・リーダー養成研修会」が開かれました。

災害時、赤十字奉仕団や防



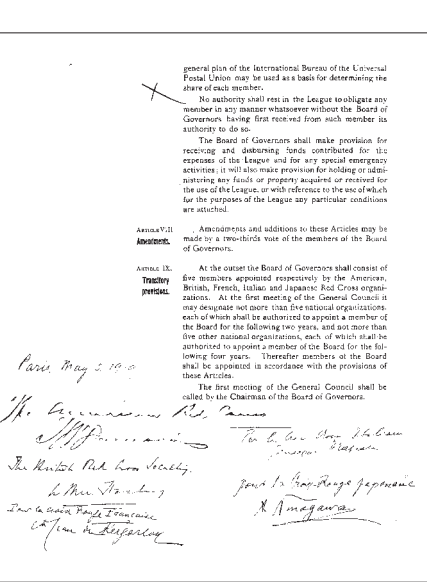
ボランティアニーズ情報の収集訓練

勢58人が参加。日赤の災害救護や防災ボランティアの活動内容、役割、今後の方向性などについて学ぶとともに、大規模地震が発生した際のボランティアセンターの運営を想定したシミュレーション訓練を行いました。

また、発災から時間経過することになり、どのようなボランティア活動が必要とされるのかを被災者の立場に立つて考えるグループワークもありました。

大学の東浦洋教授は「日赤本社建て替えの際に多くの書類が博物館明治村(犬山市)に寄贈されました。その中に署名文書が綴られたファイルも

紛れ込んでいたのです。長年関係各国の書庫を探していましたが、5月にマルタで開催される国際看護師協会の学術会議で、赤十字の看護の歴史



8年後の2019年にIFRCは創設100周年。その周年企画に向けた議論を始めようという時期の原本署名発見は、IFRC内部でも関心を集めているといえます。

# ありがとう！日赤施設にも タイガー！伊達直人さんからプレゼント

昭和40年代に人気を集めたプロレス漫画「タイガーマスク」の主人公「伊達直人」を名乗る匿名者から、日本赤十字社の乳児院や障害者福祉施設などにも心温まるプレゼントが寄せられています。



伊達直人さんからのプレゼントは、昨年の12月25日、群馬県内の児童相談所

## プレゼントが寄せられた赤十字施設

所在地	施設名	件数	内容
茨城県	日本赤十字社茨城県支部乳児院	2	紙おむつ、玩具など
長野県	松本赤十字乳児院	1	紙おむつ、お菓子
島根県	松江赤十字乳児院	1	紙おむつ、おしりふき
徳島県	徳島赤十字乳児院	1	現金3万円
青森県	青森県立はまなす医療療育センター	1	現金10万円
神奈川県	神奈川県ライトセンター	1	現金10万円
千葉県	千葉県赤十字血液センター	1	現金10万円

日赤が運営する青森県立はまなす医療療育センターには、皮切りに全国に拡大しました。

ランドセルが贈られたのを皮切りに全国に拡大しました。

1月12日、「うさぎのようにジャンプの年しよう！八戸の伊達直人」という手紙とともに10万円のお年玉が、茨城県支部乳児院にも「子どもたちが幸せにすくすくと成長されますように」との手紙に添えて紙おむつや玩具が贈られるなど、これまでに全国で7カ所の赤十字施設に8件のプレゼントが届いています(2月23日現在)。

◆ 全国に28カ所ある赤十字の社会福祉施設は、日頃から地域の皆さまのボランティア活動や寄付などが大きな支えとなつていきます。こうした支援が、施設に入所している子どもや高齢者の日々の笑顔、幸せにつながっています。引き続きご支援、ご協力をお願いします。

# ナルニア国物語

## ナルニア国から想いを託されました



TOHOシネマズ 日劇ほか  
全国ロードショー中！  
大ヒット公開中！

© 2010 TWENTIETH CENTURY FOX FILM CORPORATION AND WALDEN MEDIA, LLC.

東京・千代田区のTOHOシネマズ日劇で2月13日、「ナルニア国物語」第3章「アスラン王と魔法の島」3Dジャパンプレミア日本赤十字社チャリティ試写会が開催されました。

この作品が、子どもたちの夢や友だちを信頼することの大切さをテーマにしていることから、当日は青少年赤十字(JCRC)活動を通じて子どもたちに思いやりの大切さを伝えている日赤に対し、映画配給元の20世紀フォックス映画の試写会場で集められた



目録を手渡す20世紀フォックス映画の栗原さん(右)

10万4779円の寄付をいただきました。都内のJRC加盟校から200人以上の子どもたちが招待され、感動的なストーリーと迫力ある3D映像を楽しみました。当日はルーシー役のジョージ・ヘンリーさん上写真右から2人目や、日本語吹き替えをした女優の大地真央さんも参加しました。

## 「八月の二重奏」放映決定！

日本赤十字社が初製作した献血推進広報映画「八月の二重奏」がテレビで放映されます。命と献血の大切さを伝える作品をぜひご覧ください。

BSジャパン 3月21日(月)祝 12:59~13:59  
テレビ東京(ほか系列5局)  
3月27日(日) 16:00~17:00  
テレビ大阪・テレビ愛知・テレビせとうち・テレビ北海道・TVQ九州放送



全国のレンタルビデオ店で無料レンタル中です

# 先駆者たち ~The History~

## 蛭川新

### 国際赤十字・赤新月社連盟創設のビジョンを描いた男

「戦争終結と同時に海外での赤十字活動が禁止されるのは、人道に対する宣戦布告に等しい」。第1次世界大戦末期、当時「赤十字の仕事ではない」とされた戦時以外の救護活動の必要性を欧米相手に提唱した日本人がいました。赤十字社連盟(後に国際赤十字・赤新月社連盟=IFRCに改称)の初代理事となる蛭川新博士です。IFRCの創立75周年記念式典(1994年)でアメリカ赤十字社のデボラ・セイマー氏は「蛭川博士の勧めで初代会長デヴィソンは連盟創設のビジョンを抱きました」とその果たした役割を讃えています。

第1次世界大戦(1914~1918年)の死傷者は4000万人以上。日本赤十字社は70人以上の救護班員を欧州に派遣し、延べ12万人の負傷兵を治療しました。こうした中、終戦間際の1918(大正7)年6月、日赤は欧米各国に人道使節団を派遣します。ここに外事顧問として参加したのが国際法専門家の蛭川でした。蛭川は明治6年生まれ。「最後の幕臣」ともいわれる小栗上野介の甥としても知られています。

訪問した欧米各国の赤十字社や赤十字国際委員会(ICRC)で蛭川は訴えます。「ジュネーブ条約を改正して、平時の赤十字活動にも適用するべきだ」。同年11月にも英米各赤十字社やICRCに重ねて同趣旨の書簡を送っています。

蛭川が平時活動を訴えたのはなぜでしょうか。当時、世界に暗い影を落としていたのは戦争だけではなく、スペイン風邪と呼ばれたインフルエンザが大流行し、死者は4000~5000万人にも。また、災害被災者への救護も求められていました。

ちょうどその頃、アメリカ赤十字社でも災害などに対応できる新しい国際赤十字組織へ向けた模索が始まっていました。そして1919年2月、カンヌに日米英仏伊5カ国の赤十字社代表が集まり、その後ジュネーブでICRCと協議。4月の医事会議(カンヌ)などを経て、5月にパリで5カ国代表が署名し、赤十字社連盟が誕生したのです。

蛭川の功績について日赤看護大学の東浦洋教授は指摘します。

「ジュネーブ条約改正という蛭川博士の主張は通りませんでした。その理念は国際連盟規約第25条『健康の増進、疾病の予防、苦痛の軽減をする赤十字社の設立を推進する』に引き継がれていきます。しかし、博士が提起した国際的な災害救援活動の際のビザや機材の通関の問題などは現代でも未解決。博士の主張は時代を先取りしていたといえます」



署名した5カ国の代表。一番左が蛭川

## 坊っちゃん劇場公演 ミュージカル

# 誓いのコイン

(後援・日赤愛媛県支部、松山赤十字病院)

## 日露戦争時の捕虜収容所に芽生えた国境を超えた愛

00人ものロシア兵が収容されました。当時の日本は敵国捕虜への人道的な扱いを徹底。負傷兵は病院で治療を受けました。そうした中、日赤から派遣された看護婦のサチは目を負傷したニコライの看護を受け持つことに。やがて心惹かれ合う2人でした。

◆ 誓いのコイン」が4月9日から愛媛県東温市(松山市近郊)の坊っちゃん劇場で上演されます。

◆ ミュージカルの舞台となる松山市には、我が国初の捕虜収容所が設置され、延べ60

◆ 今から100余年前、20世紀初頭の日露戦争。日本の捕虜となったロシア人負傷兵と日赤看護婦との間に芽生えたロマンスを描くミュージカル

◆ 今から100余年前、20世紀初頭の日露戦争。日本の捕虜となったロシア人負傷兵と日赤看護婦との間に芽生えたロマンスを描くミュージカル

◆ 誓いのコイン」が4月9日から愛媛県東温市(松山市近郊)の坊っちゃん劇場で上演されます。

◆ ミュージカルの舞台となる松山市には、我が国初の捕虜収容所が設置され、延べ60

◆ 今から100余年前、20世紀初頭の日露戦争。日本の捕虜となったロシア人負傷兵と日赤看護婦との間に芽生えたロマンスを描くミュージカル

◆ 今から100余年前、20世紀初頭の日露戦争。日本の捕虜となったロシア人負傷兵と日赤看護婦との間に芽生えたロマンスを描くミュージカル

## 常任理事会開催報告

平成23年2月18日、本社において平成22年度第10回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

- 1 規則の改正について(日本赤十字社育児休業規程等の一部改正)
- 2 予算の補正について(名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院の医療機器整備に伴う愛知県支部での寄付金の繰出並びに高知県支部におけるNBC災害・テロ対策設備整備品購入にかかる平成22年度一般会計歳入歳出予算の補正、日本赤十字社長崎原爆病院における放射線治療装置の更新整備にかかる平成22年度医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)
- 3 理事会に付議する事項について(日本赤十字社支部規則等の一部改正等、成田赤十字病院の電子カルテシステム導入にかかる資金の借入)
- 4 理事会及び第76回代議員会に付議する事項について(役員選出、平成23年度事業計画、平成23年度収支予算) 審議の結果、規則の改正及び予算の補正については原案のとおり議決され、理事会及び第76回代議員会に付議する事項については、原案のとおり本年3月18日開催の理事会及び代議員会に付議することが了承されました。

◆ また、血漿分画事業の現状、平成22年度NHK海外たすけあい」募集実績額、1月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告されました。

血液が患者さんに届くまで

PART1 献血編



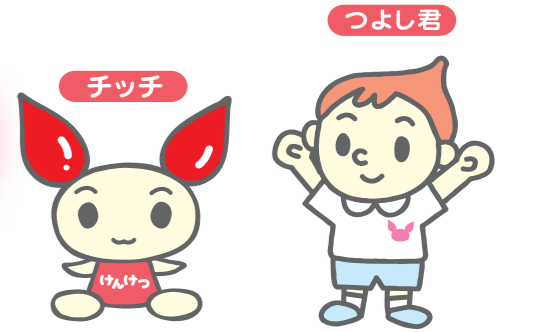
Q1 渡航歴があると献血できないの? ウィルス感染症などは、輸血により感染する可能性があります。そのリスクを軽減するため、海外からの帰国日(入国)当日から4週間以内の献血はできません。詳しくは、日本赤十字社HPをご覧ください。



Q2 血液が回復するまでの時間はどれくらい? 成分献血の場合は1週間程度、200mL献血で2~3週間、400mL献血で3~4週間程度で赤血球は回復します。

けんけつちゃんの献血教室

100万人の血液が足りなくなる!?



献血の未来は10代、20代の若者の肩に

がん治療や手術の際に行われている輸血。ところが16年後には約100万人分の血液が不足する—こんなショッキングなデータが明らかになりました。原因は少子高齢化や若者の献血離れです。血液不足による医療危機から将来の日本を救うため、いま私たちにできる事は—。献血キャラクター「けんけつちゃん」に教えてもらいました。

明るく楽しく献血初体験—京都翔英高等学校

高校3年生が卒業献血にチャレンジ

「注射は苦手!」と針から顔をそむけながらも笑顔でおどける男子生徒や「たいしたことないやん」とばかりに採血中も友達と談笑する女子生徒—献血バスのベツは高校生たちで次々に埋まり、にぎやかな雰囲気に包まれます。宇治市にある京都翔英高等学校(堤清彰校長)で2月17日、3年生の生徒たちが社会貢献体験の「卒業献血」を行いました。



笑顔が絶えない献血バスの中

思ったより簡単でした!

卒業後は声優を目指して専門学校に進学する前田勇一君は「気軽にボランティアに参加できるんですね。誰かの助けになれば嬉しいです」と初献血の感想を語ります。前田君の母親は看護師。何度も母親から献血を勧められましたが、「面倒くさそう」と敬遠してきました。「実際に体験してみたら検査や問診票の記入も簡単。誘われたらまた参加してもいいかも」と笑います。

盛り上がる人助け精神

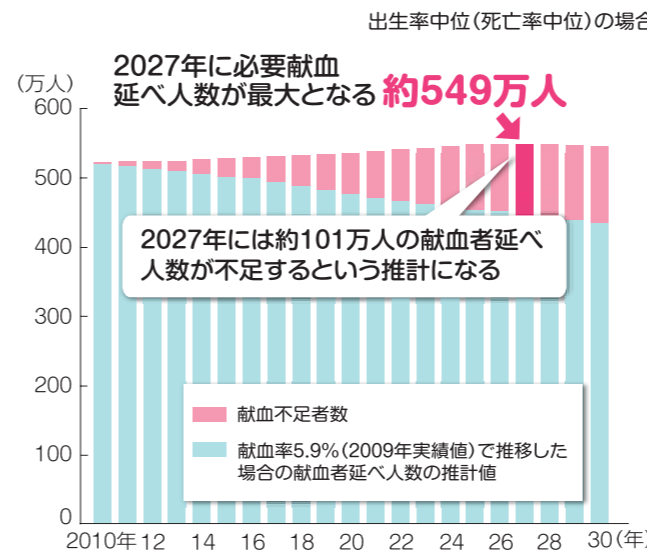
「針が怖くて…」という鈴木愛実さんは、別の女子生徒と「頑張ろう」と励まし合いながらの挑戦でした。1年生だった2年前、3年生の先輩から献血の話聞いた時は「自分は無理かな」と思っていました。でも、友達から「父親と一緒に献血した」という話を聞いたり、テレビで献血がいのちを救うボランティアだということを知り、

「私個人の役に立ちたい」と勇気を振り絞りました。「不安もあったけど、献血会場に入ったら、自分の血で誰かを助けるぞと気持ちが盛り上がりてきました」(笑い)と話します。

献血体験を社会で活かして

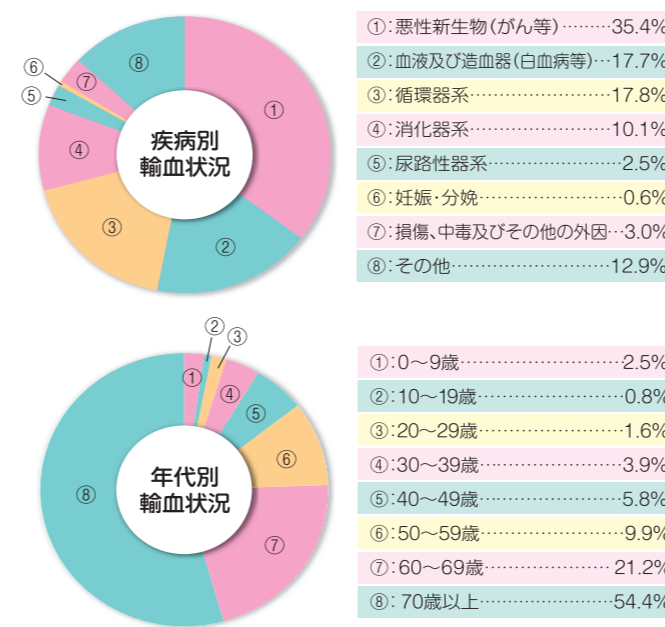
建学以来、少林寺拳法の授業を人間形成として取り入れてきた同校。「自分を守ると同時に他人も守るのが少林寺拳法。献血はその精神に通じています」と3年主任の岡澤義晃教諭。卒業献血は昭和61年から始まり、今回は卒業生130人中、65人が参加しました。岡澤教諭は「学校を巣立つ生徒たちに社会貢献体験をさせるのが目的です。献血ができなかった生徒も道路清掃活動に取り組みました。今日の体験を社会に出てからも生かして欲しい」と思いを語ってくれました。

グラフ1 必要献血者延べ人数のシミュレーション



東京都福祉保健局がまとめた2007年輸血状況調査結果と、将来推計人口を用いて将来の輸血用血液製剤の供給予測数を算出し、供給に必要な献血者数を算出すると、2027年には約549万人必要となるシミュレーションになる。また、2009年の献血率(=献血者延べ人数/献血可能人口)5.9%を今後維持すると仮定し、将来推計人口より、仮定の献血者延べ人数を算出すると、2027年には、約101万人不足するというシミュレーションになる。

グラフ2 疾病別及び年代別輸血状況



東京都福祉保健局の平成21年輸血状況調査集計結果

けんけつちゃんも頑張っているから大丈夫だよ。けんけつちゃんも頑張っているから大丈夫だよ。けんけつちゃんも頑張っているから大丈夫だよ。

血液製剤はたったの4日間。ウイルスなど安全性の問題を考慮しても、国内献血で全ての輸血をまかなうことが、国民のいのちと健康を守るために不可欠なんだよ。

そのために、まずは献血の現状、重要性を若い人たちに知ってもらおうことが大切だよ。そのうち、探血基準が4月1日から一部改正される。これまで、400mL全血献血は18歳から可能だったが、その基準を男性に限って引き下げ、17歳から400mL献血ができるようになるんだ。

深刻な若者の献血離れ

輸血を受けている人の85%が50歳以上なんだよ。輸血は、大出血を伴う大きなけがや手術のときだけ使われるんじゃない。実は40%はがん治療に使われているのよ。抗がん剤を使うと

そのうち、医学的に安全性は確認済みだから安心だよ。たくさん若い人たちに献血への一歩を踏み出してほしいよ。

血液が足りなくなると聞いて、みんなビックリしたかもじゃない? 高齢化が進む2027年には輸血が必要人数がピークを迎えて549万人。これに対して、献血する人の割合が現在と同じ5.9%と仮定すると献血者は448万人。差し引き101万人分の血液が足りなくなる計算なんだよ。(グラフ1)

輸血を受けている人の85%が50歳以上なんだよ。輸血は、大出血を伴う大きなけがや手術のときだけ使われるんじゃない。実は40%はがん治療に使われているのよ。抗がん剤を使うと

今のほくらのお兄さん、お姉さんたちの世代に献血を広げることが大事なんだよ。なるほど。輸血を必要とする高齢者が増えるから、今後もちっと輸血の必要量が増えるんだね。



献血後に注意したいこと 献血後ごくまれに、急な血圧変化により貧血状態になる場合があるので要注意。また気分が悪くなったり、採血部位に痛み、しびれが残る場合は、血液センターにお知らせください。

PART2 製造・供給編



# スポーツとコラボ

## 献血PRも 千葉 直球勝負

プロ野球・千葉ロッテマリーンズの選手らを招いた「私たちの献血」キャンペーンのイベントが1月22日、千葉市内のデパートで行われました。選手の訴えもあり、最寄りの献血会場2カ所では合わせて223人から献血への協力を得ることができました。

イベントは同球団の協力で毎年開催されています。球団

## 新長田鉄人前献血ルーム 兵庫 1周年

新長田鉄人前献血ルームの開設1周年記念イベントが1月23日に行われ、サッカーJ1ウィッセル神戸の選手2人が「1日献血ルーム所長」として参加。



鉄人28号の前で力強く献血PR

地元小学校による「ブラスト」の演奏のもと、地元商店街の有志で結成された三國志なりの隊などの皆さんとともに、周辺の商店街をパレードしました。

ウィッセル神戸は昨年からの社会貢献活動として献血の応援をスタート。献血ルーム1周年を迎えたこの日は新たに「ウィッセル神戸」献血「応援コーナー」がルーム内に設置され、選手が使用したグッズやサイン入り公式試合球などが寄贈されました。

チアリーダーのM☆S☆P☆I☆s☆hらによる献血PRの後、植松優友投手と阿部和成投手の2人がトークショーに登場。「応援に来ていただいた方は、観戦前に献血にご協力ください」と呼びかけました。

3月25日に開幕する2011年のパリーグ公式戦。千葉マリンスターダムで開催される土日のデーゲームでは、試合開始前まで献血バスでの献血が行われる予定です。



会場を盛り上げたトークショー。阿部投手(中)と植松投手(右)



退院が決まった中国人船員のウー・ジェン・ジェさん(後列左から3人目)と救命リレーを行ったスタッフ

## 海上から中国人船員を救命リレー

沖 縄

貨物船上で発生した爆発事故により意識不明の重体に陥った中国人乗組員男性を沖縄赤十字病院が救命治療。いのちを救ったのは海上保安庁、航空自衛隊、赤十字病院の三者による搬送リレーでした。

事故は昨年12月8日、沖縄本島から約740キロの洋上で発生しました。第1管区海上保安庁から連絡を受けた沖縄赤十字病院は医師と看護師

の2人を派遣。同庁飛行機で南大東島へと向かい、そこから自衛隊ヘリに乗り換えて現場へ急行しました。

2人は自衛隊ヘリにつり上げられた男性の治療をその場で開始。再び保安庁の飛行機に乗り換え、那覇空港から救急車で同病院へ搬送し、緊急手術を行いました。男性は2カ月余りの入院を経て、2月10日に退院しました。

洋上救急は1987年度に始まった海の救急制度。沖縄赤十字病院の出動実績はこれまで51回を数えています。

## 警察と合同でグリーフケア訓練 京都

災害時に肉親を失った遺族への「グリーフ(悲嘆)ケア」を学ぶ国内初の訓練が1月17日、京都府警と合同で取り組んだ災害救護訓練の中で実施されました。

グリーフケアは肉親など近親者を失った人の精神的負担を軽減するために行われることの支援です。訓練には救護班員やこのケア指導員、府警犯罪被害者支援室のメンバーが参加。遺族に遺体を引き渡す場面を想定し、言葉のかけ方や対応の際の注意点を学びました。



家族との悲しい対面に寄り添うケア指導者と被害者支援担当の警察官

## 自治体と共催で赤十字防災フェスタ 香 川

香川県支部は2月6日、三木町総合運動公園内B&G海

洋センターで三木町と共催による「三木町・赤十字防災フェスタ」を開催。約1000人の住民が集まりました。

フェスタは、参加者に家族ぐるみで防災体験をしてもらうことが目的。同町での開催は今回が初めてとなり、自治体、消防団、医師会、日赤救護班が共同で救護訓練を実施したほか、地域奉仕団による非常食炊き出し、安全奉仕団の各種講習会、日赤医師・保健師の健康相談コーナーなど、地域の赤十字職員・ボランティア

故の遺族支援などに携わってきた経験を踏まえ、被災者の視点に立った活動の重要性を訴えました。

## 「針供養」で採血針に感謝 千 葉

献血時に使用する採血針の「針供養」が2月3日、7日の両日、千葉県赤十字血液センターと同港出張所で行われました。

針供養は、折れた縫い針を2月8日(地域によっては12月8日)に神社へ奉納する伝統行事です。千葉県血液センターでは血液センター職員互助会の主催により毎年取り組まれていて、今年で27回目となります。

3日に行われた港出張所では、互助会長(浅井隆善血液センター所長)や採血担当職員らが参列。祭壇に用意されたとうふに採血針を刺し、針への思いと感謝を捧げました。



祭壇には安全祈願のお札も用意され、参列者は採血技術の向上と事故の防止も願いました

## 小学生記者が国際救援活動取材 愛 知

名古屋第二赤十字病院の「ひばり学級」は、1カ月以



上の入院が必要な小学生を対象にした院内学級。そこに通う小学2年生の益本雄太くんが1月19日、同院からハイチコレラ救援として派遣されていた職員の記者会見(帰国

報告会)に記者として参加しました。

会見は同院内で開催されたもので、益本くんの出席は生活科学習の一環です。

「ハイチではどんなものを食べていましたか?」「子どもたちの患者さんは多かったですか?」と質問すると、プロの記者からも関連質問が出される場面も。後日、益本くんは国際医療救護部を訪問して感想文を発表してくれました。

国際医療救護部では、外国の子どもたちと一緒に遊んでほしいと「マリオの絵描き歌」も披露してくれました。

### ボランティア 中心に親子防災 セミナー開催

大阪

防災ボランティアが中心となって進められる「冬季親と子の防災セミナー」が1月15、16日の2日間、大阪赤十字会館で開催されました。セミナーには両日合わせて約80人が参加。地震の仕組みや家庭でできる地震への備えのポイントなどが説明されたほか、親子でペアになって雑誌やストックキングを使った骨折固定の方法などを体験しました。



非常食作りにも挑戦しました  
「阪神大震災の被災体験を聞き、普段から防災について心がけることの大事さを感じました」といった感想が寄せられました。

### 心からの寄付に感謝

あたたかい気持ち  
山岡

各都道府県支部には毎月様々な企業・団体、個人の方から寄付金や救済金が寄せられています。そんな中から今月は、岡山県支部に寄せられた寄付を紹介します。

#### ときわグループから30万円

県内で宿泊業や旅行業、タクシー業などを運営するときわグループから1月24日、赤十字事業資金として30万円が贈られました。



岡山県支部の中西事務局長(左)がときわグループの永山久雄社長(右)に、1月28日に寄付金が寄せられました。真國さんは「岡山赤十字病院のスタッフの方々にはとても親切にお世話話を聞いていただきました。皆さまが行う今後の赤十字活動にお役にください」と話しています。

#### 病院への感謝を寄付に

岡山市在住の貞國福治さんからは「家族が岡山赤十字病院にお世話になりました」と1月28日に寄付金が寄せられました。

協力金を加えたものを寄せていただきました。



### ICRC 事業局長 ピエール・クレヘンビュールさん

3人の息子さんには日本アニメのファンに連れて行かれました

「ICRCの活動地域です。ICRCの信頼を得ることが人道支援活動には不可欠。そのた

## 紛争下で生きる人々の勇気を糧に

「人道支援という外国人による救援活動に目が向きがちですが、実は被災者自身が支えあっている。彼らは家庭を抱え、そこで生活を続けながら、人道活動を実践している。こうした人々の勇気、強さが私の背中を押してくれています」

「日本人の視点で世界を見ていくことが重要な時代です」  
世界80カ国以上で展開する赤十字国際委員会(ICRC)の事業をとりまとめる最高責任者ピエールさん。ICRC駐日事務所開設2周年の2月中旬に来日し、「アジアに絡む人道問題にアプローチしていく上でも、日本との戦略的な関係を強めたい」とアピールしました。  
大学時代は国際関係論を専攻。メディアにも関心がありまた、平和の来訪を期待して「ソ連が崩壊し、イデオロギイ対立がなくなりつつあります。だから、平和の来訪を期待して」  
「フィインターを通して人道問題を覗く前に、自分何ができるか現場で試したい」と1991年にICRCでのキャリアをスタートさせました。  
「現場に立つてきました。複数の武装組織が活動し、その暴力が民間人に向けられる近年の地域紛争。コンゴ民主共和国では40もの武装組織が存在しています。そうした環境こそがICRCの活動地域です。」  
「武装組織からもICRCは中立の信頼を得ることが人道支援活動には不可欠。そのた



## Voice&プレゼント

◆献血の素晴らしさを子どもたちに  
—高貴美幸さん(水戸市)  
小学校で幼児安全法短期講習を受講しましたが、今まで間違っていた応急手当をしていたものもあり驚きました。講習の時、初めて手にした赤十字新聞に「ゆず」が載っていたので興味深く読ませていただきました。献血は何度かしてきましたが、私の血液で誰かが救われるとしたら素晴らしいとワクワクする気持ちになりました。この気持ちは、我が家の子どもたちにも伝えていきたいと思ひます。

### プレゼント応募方法

「赤十字新聞」や赤十字活動へのご意見や感想などを下記までお寄せください。毎月抽選で素敵な赤十字グッズをプレゼントします。  
☆今月号のプレゼント  
ゴルフけんけつちゃんの大きなぬいぐるみを2名様に。  
体長・約40cm



- 郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社企画広報室 赤十字新聞係
- FAX/03-3437-7091
- メール/koho@jrc.or.jp (件名「赤十字新聞3月号プレゼント応募」)
- 応募締切/3月25日(金)必着
- ★ご投稿の際は、お名前、連絡先(住所・電話番号)を明記してください。匿名希望の際は、その旨もご記入ください。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

### 赤帽35周年に 車椅子を贈呈

赤い帽子のキャラクターでお馴染み、全国赤帽軽自動車運送協同組合連合会が昨年12月、同組合の「赤帽誕生35周年」を記念する社会福祉事業の一環として、車いす72台を寄贈。2月7日には、北海道分として8台が伊達赤十字病院に引き渡されました。



赤帽室蘭軽自動車運送協同組合の中山良治理事長(中)と吉田健治理事(左)



奉仕団からブラジル洪水救援金  
ブラジル洪水救援金を2月1日に寄せられたのは赤十字奉仕団の総社市婦人協議会です。救援金は、婦人協議会と教育委員会が1月29日に共催した「第24回総社市婦人大会」で、婦人協議会のメンバーが参加者に呼びかけて集めたもの。  
山口久子会長は「世界には災害からなかなか復旧できない国がたくさんあります。募金はブラジルの被災者のために役立ててほしい」と話しています。

募金箱の善意を日赤に  
県内で弁当仕出しを中心としたチェーン店を展開する株式会社つるやからは2月3日、赤十字事業資金として寄付金が贈られました。同社からは昨年6月にも寄付金の協力をいただきました。今回も各店舗に設置した募金箱に集まった寄付を寄せさせていただきました。

### 3月の行事予定

開催日	行事名	開催場所	問い合わせ先・備考
3月27日(日)	春休み献血バス&けんけつちゃんスケッチ大会	大分県赤十字血液センター	県内の小学生と保護者30組が対象(希望者多数の場合は抽選)、参加無料 応募締切りは3月18日。 詳細は大分県赤十字血液センター業務課 ☎097-547-1154 まで

# サイクロンを迎え撃つ 南の島々

IFRCが大洋州災害対応を支援



吉田 祐子 駐在員

海と太陽に囲まれた南国のリゾート、そんなイメージも強いフィジー諸島などの大洋州。実はサイクロンや地震の多発地帯で、高い災害リスクを抱えています。2009年9月にはマグニチュード8の地震で140人が犠牲になりました。そんな島々で国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)が取り組んでいるのが防災支援です。日本赤十字社が昨年2月から派遣している吉田祐子さんもIFRC職員としてその支援に携わっています。

## サイクロンに備えて買い出し

地震と津波、豪雨による洪水、海面上昇による高波。大洋州を取り巻く数ある自然災害の中でも、一番の脅威は毎年必ずやってくるサイクロンです。吉田さんがフィジー・スバに着任して間もなくの3月にも、接近の予報が伝えられました。

「事務所にいたら急に同僚が“サイクロンに備えなきゃ駄目だよ”って言うんです」

台風と同じような感覚でいた吉田さんはびっくりしたといいます。水をためておくポリタンクや1週間分の食べ物などを買いに行くことになりましたが、スーパーは同じ目的の人でごった返していました。

「サイクロンの接近が報じられた後にはよくある光景とこのことです。日本だったら、台風の影響で水、電気、ガスが止まったとしても数時間。フィジーでは何日も続くというのですから当然かもしれません」

## ボランティアに赤十字の理念を

IFRCはサイクロン対策に2本の柱を立てて臨んでいます。一つは、州内すべての赤十字社に、ビニールシートや台所用品セットなどの救援物資を蓄えておくコンテナを最低一つ

は設置するハード面の支援。もう一方は、ボランティア育成などのソフト面の支援です。現地には「ボランティア」という概念が受け入れられやすい土壌があると吉田さんは言います。

「部族社会の歴史があり、相互扶助の精神は強いと感じています。ただ、その精神がコミュニティや部族を超えた考えにならない場合があります。私情を廃して、限りのある救援物資を本当に困っている人に優先して届ける赤十字の理念を理解してこそ、“赤十字のボランティア”として救援に携わってもらえます」

## 地域連合チームで自主性育てる

一つひとつの赤十字社の規模が小さい大洋州にあって、別格なのはオーストラリアとニュージーランド。他の州内国が自国の人員だけで災害に対応できないときは、両国に頼らざるを得ないのが現状です。

吉田さんは現在、地域災害対応チーム(RDRT: Regional Disaster Response Team)の育成・強化に尽力しています。州内の赤十字社から人員を集めて組織し、広範囲の災害に対応するものです。昨年は基礎研修を開催し、16人が参加しました。



救援物資を用意して配ることを想定した研修

「RDRTは災害対応に関する知識や技能があり、赤十字の理念を体現する人たちです。大洋州で運用されれば人員不足が解消できます。同じ文化圏で助け合い、地域のことは地域に住む自分たちが対応したいという自主性を後押ししたいです」

今年には世界で標準化されていたカリキュラムに大洋州の特徴を加え、訓練の復習を進めていくと吉田さんは展望を語っています。



救援活動時のルールや考え方を学ぶ受講者

## フィリピン保健医療支援事業

# 山間部住民の健康・生活改善に尽力

## 日赤ナース、経験生かし世界で活躍

日本赤十字社が2005年から2期6年にわたって、フィリピン赤十字社と協力して実施してきた同国キリノ州住民の健康・生活状態を改善する支援事業が、昨年12月をもち満了となりました。海外たすけあい義援金などを財源にしたこの事業に、日赤が派遣した医療要員は合わせて21人(看護師18人、助産師3人)。現地での経験を生かし、その後世界各地で活躍しています。

## 高い感染症・伝染病罹患率

キリノ州は首都マニラから北に約400キロの山岳地帯にあり、車でも8～9時間かかります。保健施設や医療従事者の不足、貧困などのため、住民が保健医療サービスを受けることは極めて困難で、感染症や伝染病の罹患率が高いのが特徴です。ジブニーと呼ばれるミニバスのルートまで、数時間山道を歩かなければならない集落も多く、治療を受けられずに死亡する例が目立つといいます。

このため支援事業は地域住民が自ら健康を守ることができるように、地域保健ボランティアを育成・指導するほか、保健センターの建設、貯水タンクや井戸など給水設備の設置、トイレ設置のための資材の配付など、さまざまな支援を行ってきました。

08年11月から09年5月まで現地で活動した織方愛看護師(日赤医療センター)は、「とにかく車が走れるような道に出るまでが大変という地域なので、支援は病気の予防に重点

が置かれました」と、支援の目的を語ります。

## 住民自身が担う保健衛生活動

ボランティアと一緒に、手洗いやマラリア予防のために蚊帳を使うことなどを住民に普及する活動では、険しい山道を4～5時間かけて登り、やっと村落にたどり着くということもよくあります。「実際に行ってみないことには、住民の生活がどれくらい大変なのか、どんなに水に困っているのかなどがわかりません」(織方看護師)

ボランティアの育成は支援事業の大きな柱。トレーニングを受けて、地域の保健衛生活動を担うようになったボランティアたちからは「知識がとても豊富になった。これで地域の人々にいろいろなことを教えられる」「みんなの役に立つのはうれしい。これからはずっとボランティアをやりたい」などの声が寄せられています。

建設された保健センターには日赤が医療設備や器材を提供しました。簡単な医薬品なども設置され、医師による月1～2回の巡回診療もあるこの場所は、村落の保健衛生の中心です。昨年6～12月に派遣された森智恵子看護師(神戸赤十字病院)は「住民が安心感を持つとともに、日常活動の場ができたということで、ボランティアさんたちのモチベーションが高まり、これまで以上に村のために動きたいという気持ちが大きくなったようです」。

給水設備やトイレの設置も衛生状態の向上

に欠かせません。井戸のポンプや水道パイプの掃除・修理など日常のメンテナンスは住民自身が担います。

「衛生のためには水がとても大事です。水が手に入りやすくなり手を洗う機会が増えたことで、人々はより衛生的な生活が送れるようになりました」(森看護師)



貯水タンクの上で(一番左が森看護師)

## アワー・フレンズ、ジャパニーズ

こうした活動について、フィリピン赤十字の関係者や住民から「日本から資金だけでなく、人も送ってくれて、とてもありがたい」「アワー・フレンズ、ジャパニーズ(日本人は私たちの友達)」と、派遣要員らが感謝される場面も多かったと言います。

今回の事業は海外派遣未経験の日赤の看護師らが、海外での支援活動を初めて経験し、さらに国際活動を行っていくステップともなりました。

現在、ウガンダで母子保健事業に携わっている織方看護師は「地域との付き合い方などフィリピンで学ばせていただいたことが、アフリカでもとても役に立っています」。また、昨年末帰国した森看護師は「ここで学んだことを次の機会に生かしていくことが、私の仕事だと思います。世界の人にもっと笑顔になってほしいから」と語ります。

なお、フィリピン赤十字はこれまで実施してきた事業をモデルとして、今年4月から新たな地域への活動展開を計画中であり、日赤も引き続き協力する予定です。



保健センターに医療資材が運び込まれ、笑顔がこぼれる助産師(右)とボランティアたち